

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 11日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	教授	井上 一穂
研 究 題 目	彫刻史的視点を中心とした古代・中世宗教文化の研究 —薬師寺薬師三尊像の研究—	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本テーマに関して、特に図像的検討を三十二相との関係でおこなった。その結果、足下安平立相、足下二輪相、長指相、足跟広平相、手足指縵網相、手足柔軟相、金色相、七処隆満相の一部、上身獅子相、肩円好相、獅子頬相、頂髻相、白毫相などがみられた。</p> <p>これらの表現は我が国の仏像では初めて本格的に三十二相が表されたものとして注目でき、それはやや先行する大安寺釈迦如来像にも反映していたと推測されたと考えた。故に十世紀に大安寺像が模刻される中で、失われた大安寺像の作風は、薬師寺像と十世紀像を総合的に検討する視点が導き出された。そして、その視点の上に、薬師寺脇侍像の面相表現が、11～12世紀の仏像の面貌を思わせるものがあることを見出した。</p> <p>本年度は上記の成果のほかに、 「常値の地藏尊—寂光院地藏菩薩立像をめぐって—」（『寂光院』2009、10 淡交社）、 「清涼寺釈迦如来像をめぐって」（『清涼寺』2009、12 淡交社） 『国宝の美 13 彫刻 5 天平後期・平安初期の仏像』（2009、11 朝日新聞出版）編集・執筆がある。</p> <p>また一般啓蒙として、 「京都・如来の名作」（『一個人 11 特集京都の仏像』2009、11）を執筆した。</p>	